

Title	米ノ生産費二就テ
Author(s)	河田, 嗣郎
Citation	經濟論叢 (1916), 2(2): 284-290
Issue Date	1916-02
URL	http://dx.doi.org/10.14989/126957
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

京都帝國大學法學科大學

經濟論叢

第二號

第二卷

論說

●戸數割及戸別割ヲ論ズ

法學博士 神戸 正雄

●戦後ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ト日本移民問題(一)

講師 米田庄太郎

●民族的自覺ト植民地土民ノ教育

助教授 山本美越乃

研究

●不換紙幣ノ價格ニ就テ

法學博士 戸田 海市

●大藏省證券ノ割引歩合ニ就テ

法學士 三木 純吉

●保險學說ノ發展(二完)

法學士 小島昌太郎

雜錄

●中田公直氏遺著「佐藤信淵ノ農政學說」

同志社大學教授 瀧本 誠一

●米ノ生産費ニ就テ

助教授 河田 嗣郎

●商業道德ト時勢ノ變

法學博士 神戸 正雄

●家庭ニ關スル新統計調査例

教授 財部 靜治

●中歐經濟同盟說ニ就テ

法學博士 小川 郷太郎

●幼兒死亡ト貧困

法學博士 河上 肇

●米國ニ於ケル各國移民ノ消長

助教授 山本美越乃

●小國ノ將來

講師 高田 保馬

●紹介——祖國ヲ顧ミテ(河上博士者)孤立國(谷井法學士譯) 蘇峰文選(徳富猪

一郎著)

米ノ生産費ニ就テ

勸教授 河田 嗣郎

米ノ正常價格ノ何程デアル可キカラ知ルハ、米價問題ヲ論ズルニ就テハ、頗ル重要ナ事デア
ルガ、サテ之ヲ知ルハ實ニ困難ナ事業デアツテ、或ハ終ニ不可能事ニ屬スルカトモ思ハル。而シテ之ヲ探求スルガ爲メニハ、先ヅ一方ニ於テハ米ノ需給關係ヨリ來ル價格ノ決定ニ就テ見ナケレバナラスト同時ニ、他方ニ於テハ其ノ生産費ヲ究知シナケレバナラス。

米價決定ノ要素トシテノ生産費ヲ見出スガ爲メニハ、唯ダ之ヲ全國諸地方ニ於ケル典型イデカル的ノモノニ於テ求メタノデハ駄目デアルシ、サレバト云ツテ全國平均ノ生産費ヲ見出スト云フコトハ無益ニシテ且ツ不可能ノコトデアル。問題ハドウシテモ時ノ需要ニ對スル實際の供給中ノ所謂限界生産費ヲ見付ケナケレバナラスコトニ爲ルノデアアルガ、之ガ果シテ出來得可キ事業デア
ルヤ否ヤガ已ニ問題デア
ル。先ヅ理論ノ上カラ

之ヲ謂ツテ、所謂限界生産費ナルモノハ其ノ存在スルコトダケハ疑フ可ラザル所デア
ルトスルモ、如何ナル研究方法ニ依レバ之ヲ具體的ニ捕捉スルヲ得ルデアラウ歟。更ニハ又其ノ算定方法ハ奈何ニスレバ可イノデア
ル歟。是ハ講究ニ値スル然カモ至極困難ナル問題ダト思フ。

曩ニ農商務省ガ米價調節委員會ノ開催ニ當ツテ參考トシテ提供シタ『米ノ生産費ニ關スル調査』ナルモノヲ見ルニ、ソハ全國中北ハ青森ヨリ南ハ熊本ニ至ル一府八縣ニ涉リ、其ノ二十七ヶ所ヲ選ビ、之ニ人ヲ派シテ地主、自作農及ビ小作農ニ就テ實地調査ヲ爲シタモノデアツテ、所謂典型の調査ノ結果ヲ示シタモノデア
ル。抑モ此種ノ Enquete ガ米價問題ニ關シテ何程ノ意義ヲ價值ト有スルモノナルカハ、前申スガ如ク、頗ル疑ハシイ所デア
リ、之ニ依テ以テ我國ニ於ケル米ノ生産費ナルモノヲ知り、少クトモ其ノ標準ヲ定メンスルガ如キハ、亂暴ノ舉ト云ハチバナラス。然シソレデモ猶ホ之ニ依ツテ地方地方ニ於ケル生産費ノ著シク相違スル狀態ハ之ヲ窺

フトコガ出來ルカラ、全ク參考ニナラヌ無用ノ長物トハ云ヘヌ。

此ノ農商務省ノ調査ニ關シテハ、其ノ調査ノ方法、調査事項、計算ノ立方等ニ就テ批評ス可キ點方鮮クナイガ、暫ク之ハ扱テ措キ、試ニ其ノ示ス所ニ就テ見ルニ、當局ハ、土地賣買價格ニ對スル利廻ハ之ヲ四分、四分五厘、五分ノ三通リニ立テ、勞銀ハ又三十錢以上五錢上リニ五十五錢迄ヲ立テ、之ニ應ジテ多數ノ組合セノ下ニ於ケル各地方ノ生産費ヲ示シテ居ル旁ラ、又各調査地方ニ於ケル實狀ニ鑑ミ、其ノ地方ノ事情ノ下ニ於テハ是ガ最モ正當ニ近イ生産費ナリト思ハルルモノヲ右等多様ノ生産費中ヨリ引拔イテ、之ニ代表的地位ヲ與ヘ、以テ其ノ二十七ヶ所ノ比較表ヲ造ツテ居ル。試ニ左ニ之ヲ示スコトスル。

第一表 米一石當生産費調査一覽

調査地	計算			運賃諸係
	自作農	小作農	地主	
大阪府	三島郡三箇牧村(甲) 二・三・四	同 二・四	同 二・五	大阪〇・四
同	村(乙) 二・三・四	同 二・四	同 二・五	同 〇・四
兵庫縣	川邊郡川西村 二・三・四	同 二・四	同 二・五	同 〇・四

雜錄

埼玉縣	南埼玉郡豐春村(甲)	二・四・五	二七・八	東京〇・九
	同 村(乙)	二・四	二〇・八	同 〇・五
同	郡武里村(甲)	二・三・五	一五・九	同 〇・五
	同 村(乙)	二・三・四	一五・七	同 〇・五
北葛飾郡幸松村(甲)	二・三・四	一四・九	二・九	同 〇・九
	同 村(乙)	二・三・四	一四・九	同 〇・九
愛知縣	碧海郡知立町	二・三・九	八・九	同 〇・五
	渥美郡高師村	二・四・〇	一八・八	同 〇・五
新潟縣	北蒲原郡加治村	二・三・九	一四・五	同 〇・六
	東頸城郡下保倉村	二・三・〇	一四・五	同 〇・六
岡山縣	古志郡山通村	二・四・七	一三・七	同 〇・六
	上道郡西大寺町	二・三・六	一六・〇	同 〇・六
熊本縣	御津郡建部村	二・三・七	一三・三	同 〇・五
	菊池郡加茂川村	二・三・七	一三・七	東京〇・八
青森縣	玉名郡玉名村	二・五・七	一五・八	同 〇・八
	南津輕郡尾崎村	二・〇・九	一三・八	小樽〇・六
島根縣	北津輕郡中川村(甲)	二・三・七	一八・五	同 一・二
	同 村(乙)	二・三・五	一七・六	同 一・二
八東郡津田村(甲)	二・三・六	一三・六	二・九	同 〇・六
	同 村(乙)	二・三・七	一三・六	同 〇・六
同	瀨戶郡水上村(甲)	二・四・四	一五・五	同 一・二
	同 村(乙)	二・四・六	一五・八	同 一・二

右表ノ示ス所ニ就テ之ヲ見レバ、米一石ノ生産費ハ、自作農計算ニ於ケルト、小作農計算ニ於ケルト、地主計算ニ於ルトヲ問ハズ、地方ニ依リテ甚シキ高低ガアリ、斯ク對比シテ見タダケデハ、殆ンド意義ノ捕捉シヤウモ無イ。即チ自作農計算ニテハ青森縣南津輕郡尾崎村ノ十圓四十九錢ヲ最低トシ、新潟縣北蒲原郡加治村ノ十五圓三十九錢ヲ以テ最高トスルカト思ヘバ、次ニ小作農計算ニテハ最低八圓九十三錢（愛知縣碧海郡知立町）デ最高二十六圓五十八錢（島根縣瀾摩郡水上村）ト云フ驚ク可キ懸隔ヲ示シテ居ル。次ニ又地主計算ニ於テハ最低五圓三十三錢（青森縣東津輕郡中平内村）デアツテ最高十八圓八十錢（愛知縣知立町）ト云フ有様デアル。

仍テ試ニ調査サレタル右二十七ヶ町村ノ平均ヲ取テ見ルニ自作農計算ハ十三圓十三錢トナリ、小作農計算十五圓三十九錢、地主計算十一圓九十錢トナル。更ニ又試ニ此ノ三者ノ平均ヲ取テ見ルト十三圓四十七錢トナル。

然ラバ今右等ノ内最モ多額ノ生産費トシテ表

ハレテ居ル一石二十六圓五十八錢ヲ以テ限界生産費ト見ルコトガ出來ルデアラウ歟。云フ迄モナクソシテ亂暴ナ見方ハナイ。右示ス所ニテハ唯ダ生産費ハ五圓三十三錢以上二十六圓五十八錢ノ間ニ在リト云ヘルダケデアツテ、ソシテ事ダケナラ、何モ態々人ヲ派シテ調査スル迄モナイコトデアリ、一圓以上百圓以下ト云フト五十歩百歩デアル。然ラバ平均ノ平均タル十三圓四十七錢ヲ以テ正當生産費ト見ルヲ得ルデアラウ歟。否、之ハタダ僅カバカリナル場合ノ調査、即チ假ニ云ツテ見レバ少數觀察ノ結果ノ平均ニ過ギヌノデアルカラ、固ヨリ以テ全國ニ涉ル妥當ナル標準ト爲スニハ足りヌ。然ルニ農商務省ガ調價委員會ニ提出シタ參考案ナルモノヲ見レバ米價ヲ十四圓以上十八圓以下ノ間ニ居ラシメント試ミ、而シテ其ノ説明ニ於テ十四圓ハ凡ソ全國ノ平均的生產費ニ當ルモノ也トシテ居ル様ニ見ヘルノハ、或ハ此邊ノ計算カラ出テ居ルノカモ知レヌ。若シ然リトスレバ隨分御粗末ナモノト云ハネバナラヌ。

右ノ如ク此種ノ遣方デハトテモ正當ナル標準
 の生産費ヲ見出スコトハ出來ヌガ、今試ニホン
 ノ參考マデニ、農商務省ノ遣ツタ調査ノ方式ニ
 從テ、其ノ調査シタル二十七ヶ所ノ材料ニ就キ、
 其ノ各個ノ調査事項ニ關シテ平均ヲ取り、其ノ
 結果ヨリシテ一ノ假定的生産費ナルモノヲ割出
 シテ見タラバドンナモノガ得ラルルデアラウ
 カ。即チ農商務省ハ調査材料トシテ先ヅ田一反
 當ノ賣實地價、公課、水利費等、農舍農具費等、
 小作料、小作管理費ヲ調べ、次ニ米作一反當ノ
 肥料代、種子代、勞力延員數、米收量、副收入
 ヲ調べ、尙ホ參考事項トシテ法定地價、男一日勞
 銀、最近主要都市迄ノ運費等ヲ調べ、此等ノ材料
 ヨリシテ米一石當リノ生産費ヲ算出スル法ヲ立
 テ、之ヲ二十七ヶ所ニ就キ一々調べテ一々計算
 シ以テ其地ノ生産費ヲ割出シテ居ルノデア
 ル。仍テ今右等ノ各調査材料ニ就テ其ノ一々ノ二十
 七ヶ所平均ヲ見出シ、之ヲ組合セテ農商務省ノ
 採ツタ算法ニ從ヒ一ノ假定的生産費ヲ割出シテ
 見タラ、何ナ結果ガ得ラル、デアラウカ。

詳言スレバ之ヲ賣實地價ニ就テ見テモ、田一
 反當ニ於テ最高ハ五百圓(岡山縣上道郡西大寺
 町及ビ熊本縣菊池郡加茂川村)ヨリ最低ハ三十
 圓(青森縣中平内村)ニ及ンデ居リ、肥料代ニ於
 テモ最高十三圓五厘(兵庫縣川邊郡川西村)ヨリ
 最低一圓五十五錢八厘(青森縣中平内村)ニ至ル
 ノ有様デアアルカラ、總テ此等ヲ、地價ハ地價、肥
 料代ハ肥料代、公課ハ公課、米收量ハ米收量ト云
 フ風ニ其ノ一々ニ就キ二十七ヶ所ノ平均ヲ取り、
 其ノ得タル各事項ノ數字ヲ材料トシテ農商務省
 ノ採ツタ算法ニ從ヒ一ノ假定的ノ生産費ヲ割出
 シテ見タラドンナ結果ガ得ラルルデアラウカト
 云フノデア
 ル。

先ヅ左ニ調査材料ノ平均ヲ示ス。

田	(一) 賣實地價(見込)..... 三・七六(三・五四〇) *
一	(二) 公課(二十六ヶ所)..... 三・四七(三・三二) *
反	(三) 水利費(土地修繕費、(同)..... 〇・五三(〇・五四九) *
當	(四) 農舍費、農具費其他雜費..... 一・三三(一・三六) *
	(五) 小作料..... 一・一〇(一・一七) *
	(六) 小作管理費..... 〇・七四(〇・七四) *

(七)肥料代	六・九三
(八)種子代	〇・五九
(九)勞働延員數(男)	二・三
反	二・三
(一〇)米收量	四・七九
(一)副收入(稻稈、屑米、其他)	〇・五九
(二)勞銀	〇・五九
(三)普通時	〇・五九

※括弧内ノ數字ハ二毛作地米負擔部分也

右ノ材料ヲ用キテ農商務省ノ採用シタル方式ニ從ヒ、自作農小作農及ビ地主ノ各計算ニ於ケル米一石當ノ生産費ヲ算出シテ見レバ、實ニ左表示ス所ノ如キ結果ガ得ラルル。

(此表：第一表：二八九頁ニ在リ)

是ニ因テ是ヲ觀ルモ亦米ノ生産費ハ自作農計算ニ於ケルト、小作農計算ニ於ケルト、地主計算ニ於ケルトニテ、其間渺カラザル徑庭アルコトヲ知ルニハ十分デアルガ、然シ右第二表ハ假リニ造ツテ見タモノタルニ過ギナイカラ、固ヨリ之ヲ以テ我國ニ於ケル米ノ生産費ノ標準ト爲スニハ適セヌ。

然リ而シテ農商務省ノ見ル所デハ、農業用地

ノ賣買地價ニ對スル利廻ハ四分半ト云フ所ガ正當デアラウト云フノデアルカラ、今試ニ右第二表ニ就テ利廻ハ四分半ヲ取り、勞銀ハ普通時ノ平均ニ最モ近イ二十五錢ト云フ所ヲ取テ見ルト、即チ表中數字ノ下ニ線ノ引イテアルモノガソレニ當リ、是ガ先ヅ典型的ノモノトナル次第デアル。即チ自作農計算デハ十一圓、四十七錢八厘、小作農計算デハ十一圓、三十二錢五厘、地主計算デハ十三圓、二十四錢六厘ト云フガソレニ當ルコトトナルノデアル。而シテ是ハ固ヨリ假設的典型タルニ過ギヌガ、ソレデモ農商務省ガ、米ノ生産費ニ關スル調査中ニ提供シテ與ル材料ヲ利用シテ見出シ得ル範圍内ニ於テハ、典型トシテハ先ヅ最モ正當ナルモノト云ハネバナラヌ。少クトモ此等ノ數字ハ先ニ第一表ニ示シタ二十七ヶ所ニ於ケル各種計算中ヨリ選ビ出シタモノヲ、更ニ試ミニ平均シテ得タル數字ヨリハ多少意義アルモノタルヲ失ハヌ。

若夫レ、右農商務省ノ調査ニ成レル材料ヲ離レ、全國ニ渉ル統計ニ依リ、賣買地價、一反當米

第二表 平均的調查材料二依米一石/生產費計算

利率	內譯	勞銀						計
		三十錢	三十錢	四十錢	四十錢	五十錢	五十錢	
自	一石當有形支出 ⁽¹⁾	3,559	3,559	3,559	3,559	3,559	3,559	算
	一石當地價利子 ⁽²⁾	3,740	3,740	3,740	3,740	3,740	3,740	
	一石當勞銀 ⁽³⁾	3,180	3,710	4,240	4,770	5,300	5,830	
	合	10,479	11,009	11,539	12,069	12,599	13,129	
農	一石當有形支出 ⁽¹⁾	3,559	3,559	3,559	3,559	3,559	3,559	算
	一石當地價利子 ⁽²⁾	4,208	4,208	4,208	4,208	4,208	4,208	
	一石當勞銀 ⁽³⁾	3,180	3,710	4,240	4,770	5,300	5,830	
	合	10,947	11,478	12,008	12,538	13,067	13,597	
計	一石當有形支出 ⁽¹⁾	3,559	3,559	3,559	3,559	3,559	3,559	法
	一石當地價利子 ⁽²⁾	4,676	4,676	4,676	4,676	4,676	4,676	
	一石當勞銀 ⁽³⁾	3,180	3,710	4,240	4,770	5,300	5,830	
	合	11,415	11,945	12,475	13,005	13,535	14,065	
小	內譯	三十錢	三十錢	四十錢	四十錢	五十錢	五十錢	計
	一石當有形支出 ⁽¹⁾	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	
	一石當勞銀 ⁽²⁾	6,450	7,525	8,600	9,675	10,750	11,825	
	計	10,250	11,325	12,400	13,750	14,550	15,625	
作	內譯	三十錢	三十錢	四十錢	四十錢	五十錢	五十錢	計
	一石當有形支出 ⁽¹⁾	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	
	一石當勞銀 ⁽²⁾	6,450	7,525	8,600	9,675	10,750	11,825	
	計	10,250	11,325	12,400	13,750	14,550	15,625	
農	內譯	三十錢	三十錢	四十錢	四十錢	五十錢	五十錢	計
	一石當有形支出 ⁽¹⁾	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	
	一石當勞銀 ⁽²⁾	6,450	7,525	8,600	9,675	10,750	11,825	
	計	10,250	11,325	12,400	13,750	14,550	15,625	
地	內譯	三十錢	三十錢	四十錢	四十錢	五十錢	五十錢	計
	一石當有形支出 ⁽¹⁾	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	
	一石當勞銀 ⁽²⁾	6,450	7,525	8,600	9,675	10,750	11,825	
	計	10,250	11,325	12,400	13,750	14,550	15,625	
主	內譯	三十錢	三十錢	四十錢	四十錢	五十錢	五十錢	計
	一石當有形支出 ⁽¹⁾	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	
	一石當勞銀 ⁽²⁾	6,450	7,525	8,600	9,675	10,750	11,825	
	計	10,250	11,325	12,400	13,750	14,550	15,625	
計	內譯	三十錢	三十錢	四十錢	四十錢	五十錢	五十錢	計
	一石當有形支出 ⁽¹⁾	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	
	一石當勞銀 ⁽²⁾	6,450	7,525	8,600	9,675	10,750	11,825	
	計	10,250	11,325	12,400	13,750	14,550	15,625	
筆	內譯	三十錢	三十錢	四十錢	四十錢	五十錢	五十錢	計
	一石當有形支出 ⁽¹⁾	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	
	一石當勞銀 ⁽²⁾	6,450	7,525	8,600	9,675	10,750	11,825	
	計	10,250	11,325	12,400	13,750	14,550	15,625	

(1) $\frac{(種子代 肥料代 公課* 水利費其他* 農具費其他*)}{0.369 + 6.943 + 3.232 + 0.549 + 1.636} = \frac{副收入}{4.793} = \frac{一石當有形支出}{3.559}$

一反當米收量 $\frac{2.23}{2.23}$

一反當賣地價* $\frac{208.540}{2.23} = \frac{一石當賣地價*}{93.515}$ *印八二毛作地米作負擔部分

(2) $\frac{一石當賣地價 \times 利率*}{一石當賣地價利子} = \frac{一石當賣地價利子}{一石當賣地價利子}$

一反當勞力延員數(男) $\frac{23.6}{23.6} = \frac{一石當勞力延員數(男)}{10.6}$

(3) $\frac{一石當勞力延員數(男) \times 勞銀}{一石當勞力延員數(男) \times 勞銀} = \frac{一石當勞力延員數(男) \times 勞銀}{一石當勞力延員數(男) \times 勞銀}$

(1) $\frac{(種子代 肥料代 農舍費等) 副收入}{0.369 + 6.943 + 1.636} = \frac{副收入}{4.793} = \frac{小作手取米一石當有形支出}{3.500}$

米收量 $\frac{2.230}{2.230} = \frac{小作料}{1.137}$

一反當勞力延員數(男) $\frac{23.6}{23.6} = \frac{小作手取米一石當勞力延員數(男)}{21.5}$

(2) $\frac{米收量 小作量}{2.230 - 1.137} = \frac{小作手取米一石當勞力延員數(男) \times 勞銀}{小作手取米一石當勞銀}$

(1) $\frac{公課 水利費 土地修繕費等 小作管理費}{3.547 + 0.583 + 1.743} = \frac{小作料一石當有形支出}{4.833}$

小作料 $\frac{1.21}{1.21}$

一反當賣地價 $\frac{237.778}{237.778} = \frac{小作料一石當賣地價}{196.510}$

(2) $\frac{小作料}{1.21} = \frac{小作料一石當賣地價 \times 利率}{小作料一石當賣地價 \times 利率} = \frac{小作料一石當賣地價 \times 利率}{小作料一石當賣地價 \times 利率}$

收量及ビ小作料、勞銀等ノ平均ヲ取り、又頗ル多數ノ場合ニ就テ肥料代、農具費其他、水利費其他、公課等ノ調査ヲ爲シ、之ニ依リテ得タル結果ヲ材料トシテ、右表ニ示スガ如キ計算法ニ依リ、試ニ米一石當リノ生産費ヲ割出シテ見タラバ、更ニ一層面白イ假定的典型ヲ得ルコトガ出來ルデアラウ。然シ何レモ之レ典型タルニ過ギヌノデアルカラ、ソハ以テ唯ダ我國ニ於ケル米ノ生産費ヲ知ルニ就テノ一ノ目標トナスニ足ルニ過ギナイモノデアアル。從テ之レ米價決定上其ノ標準ヲ定ムル一標的タルニ過ギヌノデアツテ彼ノ限界生産費ノ如キ決定的限制ヲ爲スモノデハナイ。ケレドモ前一言セシガ如ク、此ノ限界生産費ナルモノガ所詮具體的ニ指示シ難キモノタル以上ハ、吾人ハ或ハ此種ノ方法ニ依テ求メ得ル典型の生産費ヲ見出スコトヲ以テ満足シ、暫ク之ニ準據シテ米價ノ正當標準ヲ立ツルノ已ムヲ得ザルモノアルカトモ思ハルル。兎モ角研究上ノ參考ニ供セムガ爲メニ吾人ハ茲ニ右等ノ試ミヲ敢テシタ次第デアアル。